

令和2年度
学校関係者評価報告書

令和3年6月
獨協医科大学附属看護専門学校

学校関係者評価委員会 委員構成

保護者 2名

卒業生 2名

高等学校等の関係者 1名

企業・地域等の関係者 2名

学校関係者評価 評価まとめ

< I 各評価項目について >

1. 教育理念・目的・期待する卒業生像

- 社会から信頼される看護師の育成を目指しており、今、とりわけ重要となっている心身が健康であり、人間性豊かな人材育成を教育目標に掲げて取り組んでいることがうかがえる。
- 看護の社会ニーズが多様化している現在は、そのことを踏まえて看護教育も幅のある教育が必要ではないか。看護師にもいわゆる人間力が求められ、対応力と経験値のある看護師育成を期待する。
- 医科大学の附属という特性を鑑み、理念や教育目標が掲げられている。目的に沿った教育計画がある。国際交流など、外部との接点においてはコロナ禍であり工夫が必要と考える。オンラインを積極的に活用しながら、多くの人と接する機会・学びの機会が得られる準備が求められる。
- 多くの卒業生が高度先進医療や急性期医療に貢献されていると思うが、今後はさらに地域包括ケアシステムが推進される社会の中で、卒業生が地域医療に貢献されることを期待する。

2. 学校運営

- 教育理念・教育目標に基づく基本方針・事業計画を策定し、組織が一体となって運営を行っている。
- 運営委員会が設置され、理念等に沿った運営がなされており、概ね適切に評価されている。
- 教育理念・教育目標に基づき、毎年基本方針を策定し、また教職員全員が共通理解をはかるなど、問題点は認められない。ただ管理運営を司る運営委員会の事務および教務部門の位置づけや具体的役割の整備をさらに進めてほしい。

- 運営にあたっては運営委員会が設置され、意思決定が行われている。情報システムはコロナ禍を逆手にとり、学生との連絡が一層取りやすくする体制構築が望ましいと考える。
- 学校運営は適切の評価がほとんどであり問題ないと思う。昨年度のコロナ禍での学習についても評価できる。
- コロナ禍において、対面授業等が困難な中、LMS 等を活用し授業や伝達などが行えているが、更なる ICT の活用に期待する。

3. 教育活動

- 教育理念、教育目標、基本方針などにより、教育計画や学習目的、授業内容がシラバスに掲載され、問題点は認められない。また、教員間の連携・協働体制も構築されて評価できる。
- 令和2年度は新型コロナウイルスの感染対策を講じた教育活動でたいへんご苦労があったと思う。評価は概ね適切と思うが、今後も教職員の資質向上に向けて努力いただくことを期待する。
- すべての学科目の授業評価を実施するなど、教育の質の向上に努めている。また、『ジェンダー論』など社会情勢に応じた授業科目を実施して、社会問題への理解を深めるものとなっているが、例えば、新型コロナウイルス感染症に対応した授業など、即応性、柔軟性を期待する。
- 教育の目的や内容をシラバスに明示している。教員ラダーなど教員の質的向上への視点も大切であるが、学生の自主性が高まるような日々のあたたかい関わりが何より大事であり概ね問題ないと感じる。
- キャリア教育での改善を高く評価できる。改善方策として学生が主体的に取り組み、自己評価し成長できる取り組みは重要であり看護師は常に成長を続けなくてはならないので期待している。
- 授業評価（臨地実習含む）を実施しているが、その結果や改善策がどうなっているのか、「教員の資質向上」や「組織体制の整備」と連動しているとよい。

○現在のコロナ禍で、実習は今後どの様に行うのか計画を示してほしい。

4. 学修成果

○令和元年度は国家試験の合格率が全国平均を上回り、国家試験対策の成果が表れている。令和元年度は学生の定員数に比較し、受験者数が少ない点が気になった。今後も学修成果が向上し、入学した学生の全員卒業、国家試験合格率100%を期待している。

○国家試験合格率が2020年には98.2%に回復し、努力の成果が見られる。

○看護師国家試験合格率100%目標に対して“きめ細やかな指導”とは具体的にどの様なことか示してほしい。

○雇用戦略室を設け、長期的視点で関われる体制がある。本学以外で活躍する卒業生の把握に努め、貴校の教育が関連機関での活躍の場を超えて活かされるものであると発信できると対外的なアピールになると考える。

○大学雇用戦略室を中心に就職支援体制が確立されているので、学修履歴に見合う希望の進路に進むことが可能であり、評価できる。ただ、全卒業生の動向もしっかりと把握する必要があると思われる。

○今回も卒業生の社会的評価がやや不適切の評価になっており、改善方策として就職先に依頼すると明記してあるが改善するのか。

○卒業生の実態調査を行う際には、協力したいと考えている。

5. 学生支援

○コロナ禍における学生に対する支援は十分に評価できる。

○退学率や留年率を適切に評価し、適切な学生生活が送れるように支援していると思うが、学生の相談機能や保護者との連携強化、また、新型コロナウイルスの感染対策に努めつつ、学生の健康管理に留意されることを期待する。

- 中途退学した学生に関する情報のデータ化を早急に取り組んで頂き、退学率の低下に努めてほしい。
- 看護師等を取りまく厳しい状況がある中で、入学者約100名に対して令和元年度卒業生82名となっている状況については、差分は中途退学ということか。退学理由調査をしているということだが、調査結果はどのようなになっているか、示しいただきたい。経済的支援については、独自の奨学金制度を設けるなどしているが、拡充（貸与を給付になど）や県・国への要望も場合によっては必要かと考える。
- 指導体制が確立されている。担任との面接など学生から相談を受けやすい環境を整えている。留学生の受け入れや相談体制の構築は平行して準備していく必要がある。
- 担任制をとっていて、定期的な面談に加え、学生個々の相談に応じるなど、学生支援体制が整っていると思われる。また、保護者との連携にも力をいれており、保護者説明会や保護者通信もおこなっているようで、良好と思われる。
- 在校生と卒業生の双方の支援として、ホームカミングデイやWebを活用した相談会などの開催ができるとよい。

6. 教育環境

- 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況であり、従来の教育環境を見直し、オンライン授業の充実を図ることが重要であると思う。また、今後は益々グローバル化が推進されるので、留学や海外研修等に対する学生のニーズ調査ができるとよい。
- 学内のICT化に積極的に取り組んでいる。施設・設備については、整備計画を策定するなどにより、計画的に実施すべきと考える。防災・安全管理面における自衛消防隊、全学的な防災訓練は高く評価するものである。
- メディア機器等の更新をし、コロナ禍の中3密を回避しての授業は十分に評価できる。安全管理体制についても新型コロナウイルス対策が評価できる。

○建物の老朽化が問題となっているが、今後の建て替えの予定はあるのか。

○施設の老朽化、また学生人数にマッチしたスペースや設備が不十分のままである。同時に防災面でも危惧される。オンラインをより一層活用し、集まらずとも可能な授業などを増やす工夫が必要ではないか。

○施設・設備等設置基準に適合しているが、老朽化がすすみ建て替えが望まれる。学生のため安全と安心の教育環境を整えることが望まれる。また、グローバル教育の確立も時代の流れから必要ではないか。

○男性学生が1～2割弱の割合であり、少数派の男性やLGBTQへの対応を今後考えていく必要があるのではないか。学生数に対するスペースの確保は不十分であり、改善を望む。できる範囲での感染予防・安全管理体制は整備されている。

7. 学生の募集と受入れ

○18歳人口の減少や大学志向が強くなる傾向の中で、学校の独自性や強みをよりアピールできるとよい。

○コロナ禍に対応した募集活動を展開している。看護師等の育成を目的とした専門学校であることから、例えば、適性検査を取り入れる等の取り組みを検討してみてはどうか。

○オンラインを活用した学生募集活動を行っている。

○コロナ禍のため例年行っている説明会や学校訪問などが実施されず、学校の魅力をアピールするのに制限があったが、スクールガイドやパンフレットなどの送付やzoomの利用など、できるだけ情報発信に努めているので適切と思われる。

8. 財務

○自己評価は、適切な評価である。

○適正に計画・執行されている。

○方針に準じた予算編成がなされている。会計監査の実施など、適切な運用となるよう管理できている。紙媒体の削減に関しては、抜本的な改革を要する。

○適切に行われており特に問題は認められない。

9. 法令等の遵守

○自己点検・評価の実施・公表が適切に実施されている。早い時期に学校独自の個人情報保護規程の整備が必要ではないか。

○法令等の遵守はもとより、自己評価・学校関係者評価を行い、学校運営の客観性、透明性の向上に取り組んでいる。

○関係法令に基づき、学校運営がされている。自己評価を行い、また結果の公開がされている。教育情報に関して、対外的に提供できている。

○学校関係者評価の取り組みがかなり改善されたので、今後の学校の評価に期待する。

○個人情報保護法規定の独自整備が望まれる。

10. 社会貢献・地域貢献

○今回の評価はすべて不適切となっていたが、コロナ禍では仕方がない。安全が優先である。

○令和2年度はコロナ禍でボランティア活動に制限があるが、感染対策を講じて地域貢献、社会貢献が実施されることを期待する。

○Webを使った関係団体との交流などはあるのか。

○新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場におけるご協力など、今後、壬生町との連携による地域貢献活動が進められればと考える。

○コロナ禍であり、直接的な地域貢献は難しい状況であった。国際交流、ボランティア活動なども同様で、それらの活動ができないのは致し方ないことであった。直接接点を持たずにできる地域貢献等を模索しても良

いと感じた。

- 医大や看護学部、地域と連携して、大規模災害時などの避難場所（一般の避難所とは区別した母子を含む家族単位など）の設置や災害時の学生ボランティアの仕組み作りができるとよい。
- コロナ禍のため海外教育機関との交換留学・教職員人事交流等実施は困難かと思われるが、コロナ終息の際には海外との事業をすすめてもらいたい。

以上